

全国大学書道学会

会報

7

平成21年(2009)
3月31日発行
全国大学書道学会

御挨拶

幹事長 平形 精一

昨年度秋田大学で開催された総会において幹事長に選出されました。輝かしい伝統ある学会の責務の大きさを痛感すると共に、会員諸賢の御理解と御支援を切にお願い申し上げます。

初めて本学会に参加したのは、図らずも新会長野中浩俊先生と同じ昭和四十八年度の茨城大会でした。あれから三十余年、近年では諸先輩の御尽力により日本学術会議の団体登録が実現し、査読制定も導入されて学会誌の体裁も整い、まさに隔世の感があります。

さて私事ですが、大学に着任してその挨拶に伺った時のこと、前任者友井篁村先生からは「何をするにしてもまず書家でなければならない」と、その四年前に退官された能勢海旭先生からは「学部性格を自覚して教員養成に徹すること」とそれぞれの立場からの助言をいただき、さらに大学の国語関係の教員からは、当然のように「書写教育の論文を書くこと」との使命を聞かされました。どの主張も一理あると後になってわかりましたが、そのころは大学人として何を最も大切にするか、学会に参加しても手がかりが得られないまま、ただ観光見物しては帰ってきたものでした。

ところで、静岡大学では当時国語科の中に「書写四単位」と「書道史二単

位」の授業しかありませんでした。そこで、まず高免書道の課程認定を受けて充実の一步をふみ出し、二十年前にはゼロ免課程設置に伴い芸術コースに「書道選修」を開設し、さらにその後の改組で、今日に至る「芸術文化課程書文化専攻」を誕生させることになりました。省みますと、地方大学における単独教員の及ぶ守備範囲を越えてしまった気がしますが、書き文字文化の教育は、書写から書道までを包含する必要があるとの私の強い信念が周囲の理解を促し、このような成果に結びついたと自負しています。

ここに掲載した論文は、規定にもありますように「書学に関するもの」ですが、本学会の構成員は、所属する各大学の実情から、初めから文献収集に学者生命をかけるタイプは少なく、むしろ大学で書写書道教育(研究)に携わり、実作と併行しながら書や文字文化について思索を深めることを契機とする研究者が中心になっており、このことが小誌の性格を特色づけているといつてよいでしょう。

折しも、この三月には高等学校学習指導要領が告示され、また四半世紀を経て「新常用漢字表(仮称)」の試案もまとまりました。特に後者は、「文字は書くもの」という三千年来の常識を変えた情報化時代に対応する漢字政策の今後の在り方を問うものです。書き文字文化を継承・発展させるための喫緊の課題に対し、今こそ学会員は叡知を集め集さるべき時かも知れません。



開会式で挨拶する筆者

平成二十年度 全国大学書道三学会佐賀大会を終えて

佐賀大学文化教育学部教授 竹之内 裕章

平成二十年度全国大学書道三学会佐賀大会が佐賀駅前「はぐくれ荘」において、九月十七日、十八日、十九日の三日間開催された。もう十九年も前のことになるが、この三学会を佐賀で引き受けたことがあった。したがって、今回は、二度目の佐賀大会ということになる。私の年齢からいって最後のご奉公ということになるのか。事前打ち合わせのため東京に三度ばかり出向いた。色話を聞いていくうち、その運営はなかなか煩雑であることが分かった。もともと事務処理能力が著しく欠落している私としては、これは無事にこなせるかなと不安にかられることもあったが、学会本部、地元の先生方、ゼミ生の絶大なご支援のもと何とか終えることが出来てほっとしている。

今後の学会のあり方について提言するなどと大袈裟な物言いは出来ないが、学会開催にあたって考えさせられたことを列挙してみたい。先に、色話を聞いていくうちその運営は、なかなか煩雑であることが分かった、と書いたが、書道三学会の場合、他の領域の学会と比べるとえらく仕事量が多い。考えてみれば、教大協、書道学会、



大会記念講演で金子剛講師を紹介する筆者

書写・書道教育学会と三つの学会を担当するので、三倍手間ひまがかかる。

その上、他学会と違い書道展も取りしきらねばならない。これが思った以上に大変で、少々愚痴になって申し訳ないが以下考えていただきたいことがあったのも事実である。作品締切の期間を一ヶ月過ぎて送られてきた。出品料は、振込になっているのに作品と同封してあった。作品は来たが出品料が送金されてない。原因はよく分からないが、作品表装に不具合が生じた。等々様々のトラブルがあった。平方幹事長も言っておられる様に書道展開催の意義は大いに認めるものの、今後はできるだけ開催校に負担をかけないような方策を考えていく必要があると思う。その他、色色に面倒なことはあったものの、主催者としての喜び、メリツトがあるとすれば、地元の書写・書道の振興に大きなインパクトを与えられたということであろう。今回の教育学会でのシンポジウム、書道学会での講演等の開催にあたって現場の先生、書道塾の先生等に参加を呼びかけた。予想以上の盛況で、二百名入る会場に立ち見が出るほどであった。また、シンポジウムのため、研究会を何度か持った。そのことにより、地元書写部会の意識は大いに高まった。

台風襲来の中、反れてくれとの願いが通じた三日間であった。梧竹・蒼海も見ていただいた。研究会も深まった。また、佐賀の地の書写・書道界に大きな足跡を残せた学会であったと確信している次第である。



大会会場入口

全国大学書道学会 平成20年度（佐賀）大会 次第

日 時 平成20年9月19日（金）
 会 場 公立学校共済組合佐賀宿泊所 ホテル「グランデはがくれ」
 開催大学 佐賀大学

- 9:00 受付（参加費 会員4,000円 準会員（大学院生）2,000円）
 ● 9:30 開会式／総会（ハーモニーホール） 総司会 事務局

1. 開会のことば	横田 恭三（跡見学園女子大学）
2. 開催大学あいさつ	佐賀大学文化教育学部副学部長 松尾 正幸 先生
3. 会長あいさつ	野中 浩俊（新潟大学名誉教授）
4. 幹事長あいさつ	平形 精一（静岡大学）
5. 議 事	議長 長沼 雅彦（秋田大学）
1) 平成19年度事業報告 → 資料1	石井 健（東京学芸大学）
2) 平成19年度決算報告 → 資料2	柿木原くみ（相模女子大学）
3) 平成19年度監査報告	大橋 修一（埼玉大学）
4) 平成20年度事業計画（案）→ 資料3	石井 健（東京学芸大学）
5) 平成20年度予算（案）→ 資料4	柿木原くみ（相模女子大学）
6) 役員の補充ならびに 規約の一部改正について → 資料5	平形 精一（静岡大学）
7) 査読規定ほかについて → 資料6	横田 恭三（跡見学園女子大学）
8) その他	
6. その他	
1) 学会誌について	鶴田 一雄（新潟大学）
2) 次年度開催大学あいさつ	信廣 友江（安田女子大学）
	松本 仁志（広島大学）
3) 入会員紹介 → 資料7	事務局
4) その他	
7. 閉会のことば	鈴木 晴彦（日本大学）

● 10:30～12:10 研究発表（1） ＊3会場3分科会

【第1会場（ハーモニーホール）】 司 会：横田 恭三（跡見学園女子大学）

- 10:30～11:00 「多胡碑」の様式に関する一考察 ―書風の分析を通して―
 11:05～11:35 何紹基の琉球訪問と『冊封琉球賦』について
 11:40～12:10 阮元の幕府と金石学研究

静岡大学大学院 渋谷みどり
 東京学芸大学大学院 城間 圭太
 東京学芸大学大学院 草津 祐介

【第2会場（シンフォニーホールA）】 司 会：鈴木 晴彦（日本大学）

- 10:30～11:00 江戸唐様の発展における北島雪山の書業に関する一考察
 11:05～11:35 中林梧竹の立ち書きと折り目に関する考察
 11:40～12:10 日比野五鳳と古典対峙に関する一考察

新潟大学大学院 小口 裕
 福岡県立須恵高等学校教諭 勝目 浩司
 新潟大学大学院 手代木真美

【第3会場（シンフォニーホールB）】 司 会：柿木原くみ（相模女子大学）

- 10:30～11:00 中村不折『龍眠帖』考 ―雑誌記事をてがかりに―
 11:05～11:35 明治期の美術制度から見た書的位置付け ―東京美術学校・博物館・博覧会をめぐる―
 11:40～12:10 メディアにおける書の需要と展望 ―テレビドラマ制作での事例を中心として―

大阪教育大学大学院 佐々木佑記
 鷗友学園中学校講師 柳田さやか
 東京学芸大学大学院 江島 史織

● 12:10～13:00 昼 食

● 13:00～14:15 大会記念講演（ハーモニーホール）

演題「青木繁と坂本繁二郎」 講 師：金子 剛 先生（画家／日展会友／東光会審査員）

● 14:25～16:40 研究発表（2） ＊2分科会

【第1会場（ハーモニーホール）】 司 会：鶴田 一雄（新潟大学）

- 14:25～14:55 楷書の結構法に関する一考察 ―「九成宮醴泉銘」に見る重疊法を通して―
 15:00～15:30 ハングル書芸再考
 15:35～16:05 北魏墓誌における基準例画定の試み ―『干禄字書』を利用して―

静岡大学講師 見城 正訓
 四国大学准教授 太田 剛
 愛媛大学准教授 東 賢司

司 会：大橋 修一（埼玉大学）

- 16:10～16:40 中鋒用筆の日本における展開

茨城大学講師 森 常雄

【第2会場（シンフォニーホールA）】 司 会：大橋 修一（埼玉大学）

- 14:25～14:55 手書き文字における横画間の分類手法の検討
 15:00～15:30 會津八一と金石学
 15:35～16:05 河井荃廬の篆刻における作風形成とその背景

名古屋市立大学研究員 沓名健一郎
 新潟県立柏崎高等学校教諭 小川 貴史
 駒場東邦中学校高等学校講師 杉山 勇人

● 16:45 閉 会 閉会のことば 竹之内裕章（佐賀大学）

＊会員書作展 会 期 9月17日（水）～9月21日（日）

会 場 小城市小城公民館 小城市小城町176-20

＊三学会合同懇親会 日 時 9月18日（木） 18:30～20:30

場 所 春日屋 小城市小城町北小路254-5 電話 0952-73-2233

会 費 6,000円（大学院生は3,000円）

＊幹事会 日 時 9月17日（水） 18:30～20:30

会 場 ホテル「グランデはがくれ」（多良の間）電話 0952-25-2212

資料1 平成19年度 全国大学書道学会 事業報告 → 承認

(平成19年)	5月12日	常任幹事会／三学会合同役員会（平成19年度秋田大会について）
	5月中旬	秋田大会第1次案内作成
	6月15日	秋田大会要項（第1次）、会員書作展出品要項、会員書作展図録、会員票（はがき）、会費払込用紙等 発送
	7月6日	秋田大会研究発表応募締切日
	7月下旬	研究発表採否確認
	7月14日	常任幹事会（秋田大会、発表者及び発表順、総会議事案、役員改選等 について）
	8月7日	会員書作展作品送付締切日
	8月10日	研究発表採否通知
	8月28日	研究紀要発送
	9月2日	常任幹事会／三学会合同役員会（平成19年度秋田大会について）
	9月8日	秋田大会要項（第2次）、発表要旨集送付
	10月15日	学会誌投稿論文受付締切日
	10月19日	幹事会（秋田大会総会議事検討）
	10月20日	平成19年度秋田大会（総会、研究発表、講演）／三学会合同懇親会
	10月19～21日	平成19年度会員書作展
	10月下旬～11月中旬	研究発表論文査読
	12月26日	常任幹事会（査読結果及び学会誌について）
(平成20年)	1月～2月	学会誌編集
	3月8日	常任幹事会／三学会合同役員会（秋田大会反省、20年度佐賀大会について）

資料2 平成19年度 全国大学書道学会 決算報告 → 承認

A [収入の部]		
1) 平成18年からの繰越金		1,747,645円
2) 平成19年度会費収入 (189名)		1,225,000円
3) 預金利子		687円
合 計 (A)		2,973,332円
B [支出の部]		
1) 秋田大会運営費補助 (含む講師謝礼)		220,000円
2) 幹事会費		643,274円
3) 通信費		172,475円
4) 印刷費		
会員書作展図録		360,000円
学会誌・会報		336,000円
封筒		45,150円
5) 事務費 (事務補助費、会費払込手数料を含む)		83,590円
6) 予備費		0円
合 計 (B)		1,860,489円
(A) 総収入	－ (B) 総支出	= 残高
2,973,332円	－ 1,860,489円	= 1,112,843円 (次年度繰越金)

上記の通り報告いたします。 平成20年9月17日 事務局会計担当 柿木原くみ ㊞
 以上相違ありません。 平成20年9月17日 監 査 大橋 修一 ㊞

資料3 平成20年度 全国大学書道学会 事業計画 → 承認

(平成20年)	4月26日	常任幹事会／三学会合同役員会（平成20年度佐賀大会について）
	5月初～中旬	佐賀大会要項作成
	5月21日	学会誌、会報、佐賀大会要項（第1次）、会員書作展出品要項、会員書作展図録、会員票、等 発送
	6月16日	佐賀大会研究発表応募締切日
	6月中旬～下旬	研究発表採否確認
	7月10日	会員書作展作品送付締切日
	7月13日	常任幹事会（佐賀大会、研究発表者及び発表順、会場設定、総会議事案、役員補充、査読規定等 について）
	7月下旬	会員名簿整理開始
	8月初旬	研究発表採否通知
	8月10日	佐賀大会第2次案内、発表要旨集、発送
	9月10日	学会誌投稿論文要旨受付締切日
	9月17日	幹事会（研究発表、総会議事案、査読規定等 について）
	9月18日	三学会合同懇親会
	9月19日	平成20年度佐賀大会（総会、研究発表、講演）
	9月17～21日	平成20年度会員書作展
	10月20日	学会誌論文投稿締切日
	10月下旬～12月上旬	論文査読
	12月下旬	常任幹事会（査読結果及び学会誌について）
(平成21年)	1月～2月	学会誌編集
	2月中～下旬	常任幹事会／三学会合同役員会（佐賀大会反省、21年度広島大会について）

資料4 平成20年度 全国大学書道学会 予算 → 承認

A [収入の部]	
1) 平成19年からの繰越金	1,112,843円
2) 平成20年度会費収入 (210名)	1,260,000円
合 計 (A)	2,372,843円
B [支出の部]	
3) 佐賀大会運営費補助 (含む講師謝礼)	200,000円
4) 幹事会費	600,000円
5) 通信費	200,000円
6) 印刷費	
会員書作展図録	360,000円
学会誌・会報	400,000円
封筒	50,000円
7) 事務費 (事務補助費、会費払込手数料を含む)	100,000円
8) 予備費	462,843円
合 計 (B)	2,372,843円

資料5 規約一部改正

(1) 副会長の定員について → 承認

現 行 第七条 本会に左の役員を置き、会の運営を計る。

2 副会長 二名

改 定 第七条 本会に左の役員を置き、会の運営を計る。

2 副会長 若干名

(2) 副幹事長の指名について → 承認

現 行 第七条

幹事長・常任幹事及び監査は、総会によって選出し、地方幹事は、各地区から一名選出する。

改 定 第七条

幹事長・常任幹事及び監査は、総会によって選出し、地方幹事は、各地区から一名選出する。

幹事長は、必要に応じ、常任幹事の中から副幹事長 (一名) を指名することができる。

* 平形精一幹事長より横田恭三常任理事を副幹事長に指名することが提案され承認された。

資料6 査読規定ほかについて

査読規定案 (『大学書道研究』第2号巻末に査読規定として掲載) ほかが表示され、趣旨説明、質疑応答の後、承認された。

その他 会員書作展作品集の形態の変更について

事務局会計担当より、会員書作展作品集発行費の圧縮による本学会財政の健全化が提案された。開催大学の業務軽減もあわせ、従来の単独図録から、会報にはさみこむ形での発行が提案され承認された。

資料7 平成20年度 (秋田大会以後、佐賀大会まで) 新入会員・準会員／退会者**【会 員】 (6名)**進藤 英幸 (了徳寺大学教授)
鈴木真理子 (了徳寺大学非常勤講師)
込谷 陽彦 (推薦者: 柿本原くみ)千葉 里香 (了徳寺大学助手)
森岡 隆 (筑波大学准教授)
青木 悟 (推薦者: 平形精一)**【準会員】 (8名)**加納 清一 (静岡大学大学院修士課程／推薦者: 平形精一)
渋谷みどり (静岡大学大学院修士課程／推薦者: 平形精一)
城間 圭太 (東京学芸大学大学院修士課程／推薦者: 橋本栄一)
佐々木佑記 (大阪教育大学大学院修士課程／推薦者: 萱のり子)太田 景子 (静岡大学大学院修士課程／推薦者: 平形精一)
金子 馨 (筑波大学大学院修士課程／推薦者: 鈴木晴彦)
池村絵美里 (東京学芸大学大学院修士課程／推薦者: 石井健)
平馬季三代 (新潟大学大学院修士課程／推薦者: 岡村浩)**【退会者】** 二宮 英雄 宮崎 彰夫 大林 佳代 向野 (木内) 理恵 石井ゆかり 今川 義紀 金子 照雄

平成二十年度 全国大学書道学会 会員・準会員一覧

相川 匡也	栃木県	東京学芸大学名誉教授	大野 久美	静岡県	県立稲取高等学校	川原 淳	東京都	東京しごと財団	小竹 光夫	兵庫県	兵庫教育大学
相川 政行	神奈川県	武蔵野大学	大橋 修一	埼玉県	埼玉大学	神田 浩	東京都	県立膳所高等学校	渋谷みどり	静岡県	静岡大学大学院
青木 馨子	東京都		大平 玲華	愛知県	了徳寺大学	菊池 絵美	東京都	武蔵野大学	清水 文博	東京都	東京学芸大学附属小金井小学校／竹早中学校
青木 悟	静岡県		大森アユミ	長崎県	長崎大学	北川有岐子	埼玉県	武蔵野大学	下田真奈美	宮城県	宮城教育大学
青木 辰樹	新潟県	新潟県立新潟南高等学校	岡田 新子	兵庫県	武庫川女子大学	北田 康美	岐阜県	岐阜女子大学	白鳥ゆう子	神奈川県	立正大学
青戸 貴子	鳥取県	米子市立美術館	岡崎 忍	神奈川県	相模女子大学中部	北畠 隆成	岩手県	盛岡白根女子園高等学校	城間 圭太	東京都	東京学芸大学大学院
青山 浩之	神奈川県	横浜国立大学	岡村 浩	新潟県	新潟大学	城所 正	大分県	清明白根高等学校	進藤 英幸	千葉県	了徳寺大学
赤江 貞夫	大阪府		岡本 直人	東京都	帝京大学	衣川 彰人	神奈川県	愛知教育大学	神野 雄二	熊本県	熊本大学
赤岸 恵	神奈川県	大原簿記専門学校	岡本 政弘	愛知県	九州女子大学	金 敬順	愛知県	愛知教育大学	水田至摩子	埼玉県	山田記念館
赤平 和順	東京都	大正大学	小川 崇	埼玉県	県立上尾橋高等学校	木村 博昭	愛知県	愛知教育大学	杉浦 妙子	東京都	二松学舎大学
浅川 正成	福岡県	福岡教育大学	小川 貴史	新潟県	県立柏崎高等学校	草津 祐介	奈良県	高野山大学	杉山 勇人	東京都	駒場東邦中・高等学校
浅川 学	山梨県	県公立中学校	小口 裕	新潟県	新潟大学大学院	九澤 亮子	富山県	東京学芸大学大学院	鈴木 綾	千葉県	東京家政学院大学
朝山 一人	埼玉県	攻玉社学園	小倉菊太郎	山口県	元山口大学	久多見 健	熊本県	県立新湊高等学校	鈴木 慶彦	千葉県	長崎大学
東 國恵	徳島県	徳島大学名誉教授	小黒 哲也	新潟県	県立佐渡高等学校	杵名健一郎	愛知県	名古屋市立大学	鈴木 真理子	千葉県	了徳寺大学
阿保 直彦	東京都	元立正大学	小口かおり	東京都	十文字学園女子大学	熊坂 尚史	東京都	県鴨中・高等学校	鈴木 晴彦	千葉県	日本大学
綾部 宏行	東京都	早稲田大学	押木 秀樹	新潟県	上越教育大学	久米 公	千葉県	元四国大学	鈴木 善江	神奈川県	ワルシャワ日本人学校
新井 和徳	埼玉県	県立伊奈学園総合高等学校	小田部明子	岩手県	県立大野高等学校	倉本 優子	福岡県	福岡女子短期大学	須田 義樹	北海道	北海道教育大学函館校
荒井 一浩	東京都	東亜聖天学院附属高等学校	落石 園美	東京都	新潟県	黒田 悟史	埼玉県	東京学芸大学大学院	砂川さつき	福岡県	
荒金 信治	大分県	別府大学	小野塚雅博	新潟県	県立村上高等学校	黒田 忠志	愛知県	ノートルダム清心女子大学	住川 英明	鳥取県	鳥取大学
五十嵐康子	神奈川県	麻布学園	小原 俊樹	福岡県	福岡教育大学	見城 正訓	静岡県	愛知教育大学名誉教授	高木 厚人	千葉県	大東文化大学
池田 孝一	千葉県	志学館中学校	柿木 八重	東京都	相模女子大学	黄 燕峰	東京都	県立朝羽高等学校	高澤 浩一	千葉県	二松学舎大学
池田 利廣	大阪府	大阪教育大学	柿木原くみ	東京都	愛知教育大学	高口 盛幸	福岡県	県立ひびき高等学校	高橋 照弘	千葉県	日本書道専門学校
池田 史子	広島県	安田女子大学名誉教授	風岡 正明	愛知県	愛知教育大学	小浦 直人	福岡県	県立ひびき高等学校	鷹塚 知美	埼玉県	熊谷市立熊谷南小学校
池村絵美里	東京都	東京学芸大学大学院	加瀬 琴己	福岡県	福岡県	小良 良一	東京都	東京学芸大学名誉教授	高橋美穂子	神奈川県	
伊澤 遵	新潟県	新潟大学大学院	勝目 浩司	新潟県	愛知教育大学附属高等学校	小西 憲一	岡山県	岡山明誠学院高等学校	高橋 克匡	東京都	
井澤 秀彦	東京都	恵泉女子園大学	加藤亜希子	愛知県	愛知教育大学	小竹 正高	香川県	香川大学	滝口 雅弘	東京都	
石井 健	埼玉県	東京学芸大学	加藤 億一	新潟県	新潟県	小浜 大明	長野県	信州豊南短期大学	田口伊基子	千葉県	静岡大学
石川 仁	新潟県	新潟大学大学院	加藤 達成	東京都	和洋女子大学	小林 圭	東京都	八洲学園高等学校	田熊 信之	千葉県	昭和三女子大学
石川 正史	新潟県	県立紀央館高等学校	加藤 泰弘	神奈川県	東京学芸大学	小林比出代	長野県	県立松本深志高等学校	竹嶋 秀聡	三重県	県立松阪高等学校
伊藤 淳也	北海道	北海道札幌真栄高等学校	加藤 祐司	埼玉県	筑波大学大学院	小林留美子	福岡県	県立丹生高等学校	竹之内裕章	佐賀県	佐賀大学
伊藤 忠綱	千葉県	明星大学／日本大学	金子 馨	茨城県	岩手大学	小原みどり	新潟県	新潟大学大学院	谷口 邦彦	東京都	大東文化大学
海野 正治	神奈川県	了徳寺大学	兼平 爵臣	岩手県	岩手大学	込谷 陽竜	東京都	茨城大学	田中 有	東京都	安田女子大学
浦口 新吾	神奈川県	慶應義塾普通部	加納 清一	静岡県	静岡県	齋木 久美	北海道	北海道立函館美術館	田畑 理恵	東京都	岩手大学
浦野 俊則	埼玉県	植草学園大学	亀石 二三	徳島県	四国大学	齊藤千鶴子	新潟県	新潟大学大学院	玉澤 友基	東京都	四国大学
江島 史織	東京都	東京学芸大学大学院	嘉屋 孝彦	広島県	県立井口高等学校	坂井 昭彦	福岡県	福岡教育大学	田村 実	千葉県	了徳寺大学
王 力軍	東京都	大東文化大学	萱 のり子	奈良県	大阪教育大学	坂井 孝次	神奈川県	大坂教育大学大学院	千葉 里香	福岡県	
大菅 奈緒	神奈川県	静岡大学大学院	萱原 晋	東京都	カリタス女子短期大学	佐々木佑記	神奈川県	東京家政学院大学	陳 天	東京都	和洋女子大学
太田 景子	静岡県	四国大学	河合廣太郎	埼玉県	NHK学園高等学校	佐藤 敏次	千葉県	早稲田大学高等学校	塚本 宏	東京都	
太田 剛	徳島県		河合 仁	東京都	日本大学	佐藤 英樹	新潟県	県立津南高等学校	辻 尚子	徳島県	四国大学
太田 知美	北海道	北海道清田高等学校	川田 直樹	東京都		佐藤 雄司	新潟県	新潟大学大学院	辻井 義昭	北海道	北海道教育大学札幌校
大滝 英輔	東京都	淑徳大学		東京都		塩出智代美	広島県		角田 勝久	新潟県	新潟大学

津村 幸恵	千葉大学	日比野貞勝	秋田県	広島文教女子大学
鶴田 一雄	新潟県	平形 精一	静岡県	静岡大学
手代木真美	新潟県	平原 温子	東京都	武蔵野大学
寺本 智子	福岡県	広瀬 裕之	埼玉県	千葉大学／二松学舎大
徳泉 さち	福岡県	福島 一浩	東京都	／大東文化大学
利光亜希子	福岡県	福島 肇	千葉県	和洋女子大学名誉教授
土橋 幸正	広島県	福光 左心	大阪府	奈良教育大学
飛田 博昭	茨城県	藤井 里恵	神奈川県	県立柏陽高等学校
富久 和代	徳島県	藤川 直人	東京都	了徳寺大学
豊口 和士	神奈川県	藤瀬 礼子	千葉県	了徳寺大学
豊島 嘉穂	福岡県	古屋 彰士	山梨県	県立中央高等学校
豊田 宗児	奈良県	平馬孝三代	新潟県	新潟大学大学院
直井 誠	岐阜県	法水 光雄	福井県	福井大学
仲川 恭司	埼玉県	細谷 恵志	千葉県	了徳寺大学
中川 泰一	兵庫県	堀川千夏子	新潟県	新潟大学
中嶋 章乃	東京都	本多 和宏	新潟県	県立巻高等学校
中川 好治	熊本市	本田 容子	東京都	東京学芸大学大学院
中田多恵子	静岡県	前島 良彦	大阪府	大阪教育大学
長沼 雅彦	秋田県	前田舜次郎	東京都	元跡見学園女子大学
長尾 秀則	京都府	前田 秀雄	香川県	岡山大学香川大学
成瀬 秀章	東京都	牧 愛子	岩手県	岩手大学大学院
西 絵里子	東京都	幕田 隆	千葉県	東京学芸大学大学院
西田 健	熊本市	増田 与久	静岡県	千葉大学
西橋 靖雄	奈良県	増永久美子	熊本市	浜松学芸高等学校
西村 省三	福岡県	松浦 貢	埼玉県	東洋大学
西山 明美	兵庫県	松尾 治	埼玉県	県立羽生高等学校
野中 浩俊	新潟県	松清 秀一	埼玉県	鹿児島大学
信廣 友江	広島県	松永 恵子	静岡県	
萩 信雄	埼玉県	松本 貴子	千葉県	大東文化大学
橋本 栄一	埼玉県	松本 仁志	広島県	広島大学
蓮見 行廣	東京都	松本 果織	兵庫県	立命館大学大学院
長谷川千栄子	神奈川県	丸山 由香	神奈川県	県立入里浜高等学校
長谷川昌弘	愛知県	圓山 進	千葉県	二松学舎大学
八長 康晴	新潟県	源毛 政雄	徳島県	四国大学
服部 一啓	福岡県	宮澤 正明	山梨県	山梨大学
華井 春汀	岐阜県	宮村 玄	静岡県	新潟大学
馬場 隆徳	新潟県	宮脇 玄徳	北海道	札幌龍谷学園高等学校
馬場 美幸	東京都	村井 清志	滋賀県	京都光華女子大学短期大学部
濱田 瑞美	神奈川県	村山 昌央	北海道	北海道教育大学釧路校
林田俊一郎	熊本市	村山 真美	新潟県	新潟大学大学院
原田 博至	滋賀県	森 常雄	茨城県	茨城大学
樋口 咲子	群馬県			
東 賢司	愛媛県			

* 氏名を五十音順に配列し、居住地の都道府県名、所属を記した。所属について、変更の申し出がないものについては昨年度の一覧に掲載したものをそのまま掲載した。

* 氏名、都道府県、所属に変更あるいは誤りがある場合、記載漏れがある場合は事務局庶務担当まで文書でお知らせください。

* 現在、大森案内、紀要、会報等はヤマト運輸のメール便で送付しています。住所を変更された場合、転送されませんので、住所変更・転居の場合は、新たな住所・転居先を速やかに事務局庶務担当宛文書でお知らせください。正確・迅速な発送を期すために皆様のご協力をお願いいたします。

森 哲之	広島県	広島文教女子大学
森岡 隆	茨城県	筑波大学
森上 洋光	徳島県	四国大学
森下 弘	広島県	安田女子大学
守田 晃	福岡県	県立北筑高等学校
森山 秀吉	熊本県	熊本県立大学尚綱大学
八木 宣彦	東京都	武蔵野大学
安原 亜悠	岡山県	
柳瀬ももこ	神奈川県	横浜国立大学附属小学校
柳田さやか	東京都	鵬友学園中学校
矢原 徳子	広島県	尾道大学
山崎真由美	東京都	都立新宿高等学校
山中映二朗	神奈川県	横浜国立大学
山本 興	鳥根県	県立松江北高等学校
湯澤 祐司	愛知県	安城学園高等学校
湯澤 聡	広島県	安田女子大学
湯之上尚枝	広島県	安田女子大学
横田 恭三	埼玉県	跡見学園女子大学
吉川美恵子	奈良県	奈良教育大学
吉澤 義和	埼玉県	文教大学
吉澤 龍二	岐阜県	岐阜女子大学
吉田 繁	埼玉県	東京学芸大学名誉教授
渡辺富美雄	神奈川県	
和田 圭壮	福岡県	福岡教育大学
和田 幸大	東京都	東京大学史料編纂所

新入会員推薦のお願い

会員の先生から、新入会員・準会員をご推薦いただき、さらに本会の充実を図りたいと考えております。「規約」と「新入会員用会費原票（入会申込書）」をとじておきましたので、よろしく願いいたします。

※「新入会員用会費原票（入会申込書）」に記入の上、事務局（会計担当・相模女子大学）まで郵送してください。

※年会費は、会員6,000円・準会員5,000円です。なお、大学院修了後は、会員の資格として扱います。

送金は、必ず郵便振替（青色用紙）でお願いします。（用紙の通信欄に、「新入会員」もしくは「新入準会員」と明記してください。）振込先は下記の通りです。

■口座番号 00110-9-613810

■加入者名 全国大学書道学会

〈事務局〉〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学 教育学部 美術・書道講座 石井 健 研究室内 TEL/FAX 042-329-7611

全 国 大 学 書 道 学 会

--	--	--

全国大学書道学会 新入会員（準会員）用会員原票（入会申込書）

〔 会員・準会員 〕 どちらかに○

会員番号 ※

—

郵便番号 〒 —	
住所（自宅）	
帰省先（大学院生のみ記入） 〒 —	
ふりがな 氏 名	雅号
電 話（自宅）	（ ）
FAX（自宅）	（ ）
e-mail 自宅・勤務先	
所属機関	名称
	名誉教授 教授 准教授 専任講師 助教・助手 非常勤講師 教諭 その他（ ） 準会員：大学院 博士課程 修士課程
所在地（所属機関） 〒 —	
電 話（所属機関） （ ）	
FAX（所属機関） （ ）	
推薦者（会員）氏名	
推薦理由	
本会規約第2条に定めた資格（国公立大学・短期大学・付属学校・専門学校の書道担当教員、及び元会員）に該当する方は、推薦者及び推薦理由の記入は不要です。	

* ご記入いただいた住所・氏名等の情報は、本学会事務のために利用し、そのほかの目的では利用しません。

* 事務局〔会計担当〕 相模女子大学 柿木原くみ 宛 郵送願います。

〒228-8533 相模原市文京2-1-1 相模女子大学学芸部柿木原研究室内